

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870501289
法人名	有限会社 ミキハウス
事業所名	グループホーム しおさい
所在地	愛媛県新居浜市阿島一丁目7番27号
自己評価作成日	平成 26 年 8 月 29 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 9 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者や家族の思いを汲み取った上で、その方の個性や心身の状況などを考慮し、出来るだけその人らしく生活できるよう、一人々のペースに合わせた支援・ケアに努めている。不安や心配事を最小限にするために、利用者様の生活リズムを大事にする事で、笑顔の絶えない穏やかな生活を送って頂くことを目指している。その他には、食事に関して毎週、木曜日の昼食に利用者様の前でホットプレートにて利用者様と一緒に楽しく調理をしています。土曜日にはパンを施設内で焼き味わって頂いています。(五感の刺激・食が進んでいます) DVD鑑賞も随時実施。(おしん)好評でした。自治会のイベントには情報を頂き積極的に参加をしています。天気のいい日にはドライブ・買い物での気分転換を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

北に瀬戸内海、南に石鎚山系の豊かな自然を眺めることができる恵まれたところに事業所はあるが、工業団地に隣接する場所で、日常的に地域住民と交流することは難しい。そのため、地域の絵手紙やマンドリン演奏のボランティア、自治会長、民生委員、介護保険事業所などの協力を得ながら、相互に協力し合う関係を築き、交流が広がるよう努めている。広々とした敷地にはゆったりと風通し良い居住空間が広がり、利用者は個々の生活リズムの中で和やかに生活を送っている。職員は多数入れ替わり経験の浅い職員は増えたが、利用者の立場を考え地域に開かれた質の高い事業所を目指し、心機一転新たにスタートしている。特に利用者の生活に直結する職員一人ひとりの質の向上やチームとしての連携の強化は必要な課題であり、真剣に取り組む姿勢を持っている。代表者を兼務する管理者は業務改善等に奮起しつつ、これまでの経験をもとに実績を積み重ねており、今後が楽しみな事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム しおさい

(ユニット名) ユニット1

記入者(管理者)

氏 名 三木 清志

評価完了日 平成 26 年 8 月 29 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 全職員の話し合いのもと決定し、事業所独自の理念に基づき、管理者及び職員一同常務にあたっている。	
			(外部評価) 「その人らしくゆっくりゆったり・安心した生活を送る・笑顔で過ごせる生活を送る」という理念は、開設当初に職員間で話し合い作成している。職員の大幅な再編成があったため、理念を再度職員間で共有し理解するよう努めている。管理者は、利用者が住み慣れた地域で安心して笑顔で生活してもらいたいと考えており、職員も同じ思いで業務に従事してもらいたいと考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 出来るだけ多くの利用者様に地域の行事に参加して頂ける様、環境作りに努めている。また、絵手紙やマンドリン演奏などを通して地域のボランティアの方々と交流を深めている。	
			(外部評価) 工業団地に隣接する場所に事業所はあり、日常的に地域住民と交流することは難しいが、地域の絵手紙やマンドリン演奏のボランティア、自治会長、民生委員、介護保険事業所などの協力を得て、相互に協力し合う関係を築いている。地区運動会などの地域行事に利用者と一緒に参加したり、日々の生活の中で地域住民と挨拶を交わすなど地道な活動を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方々には運営推進会議を通して認知症に関する勉強会に参加して頂くことで、更なる認知症に対する理解や支援の方法等アドバイスをを行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 利用者様の近況報告や研修内容の報告行事報告など行っ ている。地域住民の方々に参加を募り情報交換し合う事によ りサービスの向上に努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議は家族、自治会長、民生委員、地域住民、市 担当者等の協力を得て開催している。会議では事業所の活 動内容などの報告をするほか、職員の研修報告や他の介護 保険事業所と合同での防災訓練等を実施するなど、地域と の連携を深める場として有意義に活用している。参加者か らは毎回貴重な意見が出され、意見は運営に反映すると共 に、職員の励みにも繋がっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営会議等を通じ、情報交換を行ったりアドバイスを頂い たりしている。また介護における困難事例や分からない事 について相談している。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の様子 を知ってもらうほか、アドバイスをもらっている。日常的に 運営上の相談は市担当窓口へ直接出向き、課題解決に向け て一緒に話し合い、協力関係を築くことができている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間時は防犯として施錠しているが、それ以外では見守り を重視し身体拘束をしないケアを実践している。	
			(外部評価) 日中玄関の施錠はせず、職員は利用者を見守りながら自由 な暮らしを支援している。身体拘束の対象となる具体的な 行為は、経験豊富な先輩職員が新人職員にその都度説明し ている。居室内で転倒の危険のある利用者には鈴を鳴らし てもらいなど、職員が迅速に対応する工夫をしている。	身体拘束をしないケアの実践は、ベッド柵の使用など 職員の経験値により理解が異なり、職員間で共有でき ていない状況にあるため、正しく理解してケアを実践 することを期待したい。また、身体拘束等の勉強会を 実施したり外部研修に参加したりするなど、繰り返し 実施しながら職員間で共有することを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 日常生活において虐待が起きない様、常に職員がチェックし防止に努めている。また外部研修やスタッフ会を通して全職員が高齢者虐待防止について学ぶ機会を提供している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者、職員共に必要とされる方々に対し活用出来る様外部研修やスタッフ会等を通して日常生活自立支援事業や成年後見制度について知識を深めるための支援を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者様や、ご家族の思いを十分に理解した上で契約にあたっての不安や疑問を解消して頂けるよう、しっかりとした説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会において、利用者様のご家族の方々に参加して頂ける様お声掛けし参加して頂いた際には要望や意見等を頂戴している。また、介護相談員をお招きし利用者様との何気ない会話の中に思いを汲み取る事が出来る様、努めている。	
			(外部評価) 管理者は職員が多数入れ替わり、利用者が不穏になったり家族から困るとの意見が出されたことを踏まえて、利用者や家族と良好な信頼関係づくりを大切にしていきたいと考えている。家族から「家族会を開催してほしい」という要望が出され、事業所が落ち着くまで開催を待ってほしいと回答している。家族に職員の名前を覚えてもらうため、分かりやすい名札を使用している。スタッフ会などで職員間の意見交換を行ったり、利用者の思いを共有したりする場として、積極的に活用することを検討している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月行うスタッフ会で、管理者は職員が抱えているケアに対する意見や提案、改善点等を把握し、その解決や状況の改善などに努めている。 (外部評価) 代表者は管理者を兼務しているため、運営事項など決断ができる立場にあり、職員から出された意見や提案は反映されやすく、職員のやりがいにも繋がっている。管理者は職員間の人間関係が良好になるようサポートを心がけており、人のうわさをしないように教育するなど職員一人ひとりの意見を出しやすい職場環境づくりに努めている。また、管理者は職員とコミュニケーションを図るよう心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員が個々にキャリアアップ出来るよう支援しており、各職員がスキルアップする事で、やりがいや向上心を持って働く事が出来る環境作りに努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 地域密着型サービス協会が主催する研修には、希望する職員が必ず参加出来る様シフトの調整を行っている。また資格取得の為に支援としてスクーリング研修が受講できるようなシフト調整や休暇を与えるなど実地している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互研修に参加することで、相手施設より学びえた意見や助言を参考にしたり、各施設間で行われている勉強会に参加したりする事で、より質の高い介護が出来る様努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービスを開始する前に、利用者様と十分に話し合える時間を作り、生活していく上で不安や要望等があれば把握し安心して頂ける様に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族側の気持ちになり耳を傾け十分にお話をする時間を設け、要望や不安、困っている事など把握し安心して頂けるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 何を必要としているか情報収集に努めアセスメントを通じて当施設が適切かどうか判断している。また他のサービス利用についても助言等行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活で必要な料理の下ごしらえや洗濯物の片付け等のお手伝いをして頂く事で職員の知らない工夫や知恵を教えて頂いている。また職員は共に生活していると言う意識を常に持ち利用者様と共有できるよう関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご本人の思いやご家族との繋がりを重要視し、面接時は経験豊かな職員が対応することで両者の架け橋となれる様努めている。またご家族の方からの相談には誠心誠意を持って対応している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族と電話連絡などを通じて、ご本人が安心して生活出来る様環境作りに努めている。また、お盆、正月、お祭りなどの行事ごとには家族水入らずで外出し楽しんで頂けるよう支援している。 (外部評価) 利用者の好きな映像鑑賞や長年続けてきた俳句の投稿など、継続して行えるよう支援している。家族の協力を得て、馴染みの店に買い物や食事に行けるよう支援している。事業所へ友人の訪問があり、快く受け入れをしている。また、事業所を利用することにより、利用者同士や絵手紙などの地域のボランティア、地域住民などと新たな馴染みの関係ができてきている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者様同士の言動や行動に常に目配り気配りし、声掛けなどを通して支援を行ったりレクリエーションに参加して頂いたりする事で良い関係を保てるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了しても、相談や支援が必要な方やご家族の方との関係を断ち切らない様にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ご本人の意向を大切にし、その思いを把握できるよう努めサービス担当者会議の場にて情報の提供を行っている。ご本人からの把握が難しい時はご家族の意見を伺い検討し、ご本人本位となるよう努めている。 (外部評価) 日々の生活の中で利用者から思いや意向を聞いて把握している。思いを言い表すことが難しい利用者には表情などからくみ取ったり、家族から情報を聞くようにして、安心して生活してもらえよう支援している。新たに知った情報は、ユニット会などで職員間で共有できるよう努めている。	経験の浅い職員も多く、職員のレベルアップを図るためにも利用者の思いや意向に関心を持ってもらい、利用者一人ひとりを深く理解する取組を期待したい。また、職員の利用者を総合的に見つめる目を養い、新たな気づきなどを大切にしてケアに活かすことができることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人、ご家族、担当のケアマネージャーから入居前より情報を収集しスタッフ会において全職員が情報を共有している。入居後もご本人やご家族との談話を通情報収集に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) その人らしく、その人に合った生活が出来るよう工夫している。また、これまでの生活と変化が生じた時には、全職員が情報を共有し合い現状に合った生活をして頂ける様に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) スタッフ会において利用者様の現状や課題を把握し、その都度介護計画の見直しに役立てている。またご家族の方にも近況報告を行う際にその意向を聞きそれを取り入れたプランを作成している。 (外部評価) 計画作成担当者が利用者や家族の意向を確認して介護計画の原案を作成し、毎月のユニット会で話し合い、職員の意見を取り入れて作成している。また、介護計画の援助目標の一覧表を作成し、目標の実施状況を色分けして記録することで、モニタリングを分かりやすくしている。現在、記録はパソコン入力と手書きを併用しているため煩雑で、管理者は重複した部分を簡略化するなど、新たな様式を検討している。	職員全員で介護計画への理解を深め、利用者一人ひとりの目標達成に向けて、統一したケアを提供できることを期待したい。介護記録は、日常的に利用者を支援している職員しか知りえない事実や気づきなどを大切にして具体的に記録し、職員間で情報を共有しながらケアに繋げることを期待したい。また、日々実施したサービスを分かりやすく記録できる様式を、職員間で話し合い作成することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に対応表を作成し日々の状態変化や情報を共有出来るようにしている。また水分摂取量や入浴状況、排泄状況等をチェックし気付いた事を記入。これを基に日々のケアや介護計画の見直しに努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 定期受診の際には基本にご家族の方に依頼しているが、都合がつかない場合などは看護師対応に行っている。例えば訪問歯科診療において定期的に口腔内のケアを行っているが、異常が見られる場合は個別に対応し、1人ひとりが快適に過ごせるよう環境作りを行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 日々豊かな暮らしをして頂けるよう絵手紙やマンドリン演奏に来て下さるボランティアの方々、民生委員、介護相談委員の方々との交流を行い楽しんで頂ける環境作りに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 定期受診の際には基本にご家族の方に依頼している。日 頃の情報提供を書面にてお渡しし主治医との連携を図っ ている。協力医との連携も密に行いご家族の了承の元、往診 をして頂き適切な医療の支援に努めている。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医や専門医を、家族の 協力を得て継続して円滑に受診できるよう支援している。 家族が同行できない場合には、職員が受診介助をしている ほか、必要に応じて、事業所の福祉車両を貸出しする場合 もある。協力医は相談しやすく連携が取れており、日頃の 健康管理と合わせて、安心した医療が提供できるよう支援 している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師を配置しており、体調変化時の報告は素早く対応し 家人への状況報告、受診に繋げている。看護師は職員から の状況変化の報告をいつでも受けれるように24時間体制 で臨んでいる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時にはサマリーで情報提供を行っている。様子観察を 兼ねての訪問を行い病院との連携を図っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に家人と終末期の方針について充分に話し合いを行 いご本人、ご家族の意向を第一に考え施設で出来る範囲の 説明を行い文書として共有しご本人、ご家族の望まれる支 援をしている。各個人の終末期のケアの対応は主治医の指 導の元に家人の協力を得ながら看護師が職員への助言を 行っている。	
			(外部評価) 今までに看取りの実績はないが、事業所として対応できる 内容を入居時に利用者や家族等に説明している。利用者の 状態に応じて、家族や医師を交えて話し合い、要望に沿っ た支援をしている。事業所での対応が難しく、入院や他の 施設への転居が必要となった場合には、事業所として受け 入れ施設等を一緒に探す対応もしている。管理者はその 時々の事業所で対応できる力量を把握し、現状で利用者を どこまで支援できるか適切に見極め、事業所として対応で きる適切な支援に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成し随時急変時の対応等についての勉強会を実施し意識付けを行っている。緊急時対応の定期的な研修については全職員が順番で参加をしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難経路に障害物がないか確認した上で施設内や施設周辺の整備、見回りを日々行っている。また近くの事業所と連携した定期的な防災訓練により各職員に意識付けを行いトリアージを取り入れたマニュアルの実践を図っている。運営推進会議を通じて、実際に地域の方々に参加して頂き災害時における協力体制を築いている。 (外部評価) 年2回、昼間や夜間、様々な災害を想定した避難訓練を実施している。事業所には避難用スロープを整備し、避難経路を確保するなど、災害発生時にも安全に避難できるよう取り組んでいる。運営推進会議では地域住民と防災対策について話し合い、出された意見を訓練に活かしている。同じ地区にある他の事業所と相互の協力関係を構築し、合同で避難訓練を実施している。また、飲料水や食料、毛布などの備蓄品を用意し、災害時に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者様一人ひとりの思いや人格を大切にし人生の先輩として敬意を払った言葉掛けや対応を行っている。また、サービス担当者会議にて情報を共有し全職員が統一したケアが出来るよう努めている。 (外部評価) 職員は利用者の立場を考え、一人ひとりの人格を尊重した声かけや対応をしている。気になることがある場合には職員同士で注意し合ったり、月1回ユニット会で話し合ったりするなど、改善する取り組みをしている。トイレにはひざ掛けが用意され、利用者の羞恥心に配慮した排泄支援が実施できている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 会話する際には利用者様よりも低い位置で視線を合わせ笑顔でゆっくりと話をし望んでいる事を理解し自己決定が出来るよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 各利用者様に対し常に様子を観察する事で、その人の希望を汲み取る事が出来る様努めている。また申し送りなどで情報を共有し現時点での最良のケアを行えるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 外出時には職員と共に服を選んで頂く事で、その人らしいオシャレが出来るよう支援している。また、月に1度、訪問理容の方による散髪を行っており、定期的に行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食器やテーブルを拭いて頂いたり、料理の下ごしらえ等お手伝いをして頂く。また、週に一回利用者様の前での調理に努めている。その時は、職員も共に食事を楽しめるよう支援している。 (外部評価) 食事摂取基準を参考にし、栄養バランスが取れた高齢者向けのメニューを提供する宅配サービスを利用している。週1回ホットプレートを使用し、お好み焼きや餃子作りに挑戦したり、焼き立てパンやおやつ作りなどを行い、利用者が五感で楽しめる工夫をしている。職員と一緒に配膳の準備や片付けなど、利用者ができる役割に着目し手伝ってもらっている。また、利用者の希望に応じて、回転寿司やうどんを食べに出かけるなど、気分転換を兼ねて外食が楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 各利用者様の食事量を調整し摂取量が少ない時はゼリーなどでご本人の好みの物を補っている。水分摂取量に置いてもご本人のお好みの物を提供し補って頂き支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、声掛けにより口腔ケアを行い、口腔内を清潔にして頂ける様努めている。拒否された場合には時間を置いて再度声掛けを行い職員が交代するなどし対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) こまめな声掛けを行い各利用者様に合わせたトイレ誘導にてトイレ内での排泄が出来るよう支援している。また、夜間時は体調を見合わせながら介助出来る場合はトイレ誘導を行っている。 (外部評価) 排泄時間や水分摂取量を記録してパターンを把握し、時間を見てトイレに誘導して気持ち良く排泄できるよう支援している。利用者の訴えや表情、様子を見逃さないようにして、さりげなくトイレ誘導をしている。オムツを使用している利用者には、体調に応じた排泄支援をしている。毎月ユニット会で、利用者に合わせて排泄用品の使用等を話し合い、現状維持や自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 看護師より、体調変化や便秘の原因について説明を受けており水分摂取量を把握する事で、十分に水分補給できるようにしている。また利用者様によっては起床時に乳酸菌飲料を提供するなどして便秘の解消に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ご本人の希望や体調を最優先にした上で、入浴日を大まかに決定している。入浴の際には気分転換、快適に過ごせるよう支援している。 (外部評価) ユニット毎に個別浴槽があり、週2～3回を基本として、利用者の希望や必要に応じて入浴できるよう支援している。入浴できない日には利用者の状態に応じて清拭や足浴により、清潔保持に努めている。納得できないと入浴をしない利用者には無理強いせず、タイミングや声かけなど工夫して説得し、入浴してもらうようにしている。利用者の状態に応じて、シャワーチェアやキャリーを使用し、安心安全に入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者様の意向を聞き、その日の体調変化をしっかりと観察した上で、随時声掛けをする事で無理強いのない生活リズムを大事にしたケアを行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 常に職員がチェック出来るよう個人ファイル及び薬かごに薬の説明シートを添付している。特に重要な薬についてはスタッフ会で説明や指導等を受け全職員が把握出来るようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 毎週一度に職員と共に昼食作りを行っている。一人ひとり役割があり、楽しく過ごされるよう支援している。気分転換や日々の張り合い喜びを感じて頂けるよう努めている。DVD鑑賞も要望で行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日には、声掛けにてドライブや施設周辺の散歩を楽しんで頂けるよう支援している。買い物の希望がある時には近くのスーパーに外出している。また、地域のイベント等にも積極的に参加して頂く事で地域の方々との交流に努めている。 (外部評価) 外出は特別なものではなく、日頃から散歩やドライブできるよう支援している。日常会話の中で聞いた利用者の希望に応じて、気軽に外出できる支援に努めている。季節に応じて、翠波高原にコスモスを見に出かけ、利用者から率直な喜びの声が聞かれ、職員の励みに繋がっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の所持を希望されている利用者様に関しては職員が把握した上で、一定額持って頂き自由に使えるよう支援している。残金が少なくなると家人からお金を預かり補充を行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 入居時に自由に電話や手紙のやり取りが出来る事をご本人やご家族に説明している。利用者様が希望された場合には電話を掛け楽しく談話出来るよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 四季の花など折り紙で折り廊下、ホールに飾りつけをし落ち着いて過ごせる空間作りをしている。快適に過ごして頂く為こまめに清掃を行っている。 (外部評価) 開設10年を迎えた事業所であるが、日々丁寧な管理や清掃が行われ、清潔な状態が保たれている。玄関には季節の花が生けられ、共用空間には俳句や絵手紙、写真が飾られている。畳コーナーでは利用者が洗濯物をたたんだり、身体を休めながら談笑しながらくつろいでいる姿が見られた。ユニットの間には広いウッドデッキがあり、利用者が芋炊きを食べたり足浴を楽しんでいる。庭には野菜や花を育てている。金魚の飼育を楽しむ利用者の姿も見られ、ゆったりした時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) テラスにベンチや日よけパラソルを設け利用者様同士で過ごして頂いたり、中庭には花を鑑賞して頂いたりして、自由にどの場所にも行き来出来る空間作りを行っている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居の際に、ご本人やご家族と相談した上で、ご本人の馴染みの物を持参して頂く事で、快適に居心地良く過ごして頂けるよう努めている。 (外部評価) 居室はベッドとタンスが備え付けられている。居室の中には畳敷きの部屋もあり、利用者の生活習慣や希望により使い分けている。利用者の思い入れのある物を持ち込めるよう家族等に声かけをしており、利用者は使い慣れた家電や生活用品を自由に配置し、家族と一緒に居心地良い空間となるよう模様替えをしている。また、来客者と話せる場所を確保している利用者もいる。居室の清掃も行き届き、利用者が気持ち良く生活できるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室やトイレ等、各部屋にそれぞれの場所が確認できるよう目線に合わせて提示し、安心して生活して頂けるよう工夫している。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870501289
法人名	有限会社 ミキハウス
事業所名	グループホーム しおさい
所在地	愛媛県新居浜市阿島一丁目7番27号
自己評価作成日	平成 26 年 8 月 29 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 9 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者や家族の思いを汲み取った上で、その方の個性や心身の状況などを考慮し、出来るだけその人らしく生活できるよう、一人々のペースに合わせた支援・ケアに努めている。不安や心配事を最小限にするために、利用者様の生活リズムを大事にする事で、笑顔の絶えない穏やかな生活を送って頂くことを目指している。その他には、食事に関して毎週、木曜日の昼食に利用者様の前でホットプレートにて利用者様と一緒に楽しく調理をしています。土曜日にはパンを施設内で焼き味わって頂いています。(五感の刺激・食が進んでいます) DVD鑑賞も随時実施。(おしん)好評でした。自治会のイベントには情報を頂き積極的に参加をしています。天気のいい日にはドライブ・買い物での気分転換を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

北に瀬戸内海、南に石鎚山系の豊かな自然を眺めることができる恵まれたところに事業所はあるが、工業団地に隣接する場所で、日常的に地域住民と交流することは難しい。そのため、地域の絵手紙やマンドリン演奏のボランティア、自治会長、民生委員、介護保険事業所などの協力を得ながら、相互に協力し合う関係を築き、交流が広がるよう努めている。広々とした敷地にはゆったりと風通し良い居住空間が広がり、利用者は個々の生活リズムの中で和やかに生活を送っている。職員は多数入れ替わり経験の浅い職員は増えたが、利用者の立場を考え地域に開かれた質の高い事業所を目指し、心機一転新たにスタートしている。特に利用者の生活に直結する職員一人ひとりの質の向上やチームとしての連携の強化は必要な課題であり、真剣に取り組む姿勢を持っている。代表者を兼務する管理者は業務改善等に奮起しつつ、これまでの経験をもとに実績を積み重ねており、今後が楽しみな事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム しおさい

(ユニット名) ユニット2

記入者(管理者)

氏 名 三木 清志

評価完了日 平成 26 年 8 月 29 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 全職員の話し合いのもと決定し、事業所独自の理念に基づき、管理者及び職員一同常務にあたっている。	
			(外部評価) 「その人らしくゆっくりゆったり・安心した生活を送る・笑顔で過ごせる生活を送る」という理念は、開設当初に職員間で話し合い作成している。職員の大幅な再編成があったため、理念を再度職員間で共有し理解するよう努めている。管理者は、利用者が住み慣れた地域で安心して笑顔で生活してもらいたいと考えており、職員も同じ思いで業務に従事してもらいたいと考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 出来るだけ多くの利用者様に地域の行事に参加して頂ける様、環境作りに努めている。また、絵手紙やマンドリン演奏などを通して地域のボランティアの方々と交流を深めている。	
			(外部評価) 工業団地に隣接する場所に事業所はあり、日常的に地域住民と交流することは難しいが、地域の絵手紙やマンドリン演奏のボランティア、自治会長、民生委員、介護保険事業所などの協力を得て、相互に協力し合う関係を築いている。地区運動会などの地域行事に利用者と一緒に参加したり、日々の生活の中で地域住民と挨拶を交わすなど地道な活動を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方々には運営推進会議を通して認知症に関する勉強会に参加して頂くことで、更なる認知症に対する理解や支援の方法等アドバイスをを行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 利用者様の近況報告や研修内容の報告行事報告など行っ ている。地域住民の方々に参加を募り情報交換し合う事によ りサービスの向上に努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議は家族、自治会長、民生委員、地域住民、市 担当者等の協力を得て開催している。会議では事業所の活 動内容などの報告をするほか、職員の研修報告や他の介護 保険事業所と合同での防災訓練等を実施するなど、地域と の連携を深める場として有意義に活用している。参加者か らは毎回貴重な意見が出され、意見は運営に反映すると共 に、職員の励みにも繋がっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営会議等を通じ、情報交換を行ったりアドバイスを頂い たりしている。また介護における困難事例や分からない事 について相談している。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の様子 を知ってもらうほか、アドバイスをもらっている。日常的に 運営上の相談は市担当窓口へ直接出向き、課題解決に向け て一緒に話し合い、協力関係を築くことができている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間時は防犯として施錠しているが、それ以外では見守り を重視し身体拘束をしないケアを実践している。	
			(外部評価) 日中玄関の施錠はせず、職員は利用者を見守りながら自由 な暮らしを支援している。身体拘束の対象となる具体的な 行為は、経験豊富な先輩職員が新人職員にその都度説明し ている。居室内で転倒の危険のある利用者には鈴を鳴らし てもらいなど、職員が迅速に対応する工夫をしている。	身体拘束をしないケアの実践は、ベッド柵の使用など 職員の経験値により理解が異なり、職員間で共有でき ていない状況にあるため、正しく理解してケアを実践 することを期待したい。また、身体拘束等の勉強会を 実施したり外部研修に参加したりするなど、繰り返し 実施しながら職員間で共有することを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 日常生活において虐待が起きない様、常に職員がチェックし防止に努めている。また外部研修やスタッフ会を通して全職員が高齢者虐待防止について学ぶ機会を提供している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者、職員共に必要とされる方々に対し活用出来る様外部研修やスタッフ会等を通して日常生活自立支援事業や成年後見制度について知識を深めるための支援を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者様や、ご家族の思いを十分に理解した上で契約にあたっての不安や疑問を解消して頂けるよう、しっかりとした説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会において、利用者様のご家族の方々に参加して頂ける様お声掛けし参加して頂いた際には要望や意見等を頂戴している。また、介護相談員をお招きし利用者様との何気ない会話の中に思いを汲み取る事が出来る様、努めている。	
			(外部評価) 管理者は職員が多数入れ替わり、利用者が不穏になったり家族から困るとの意見が出されたことを踏まえて、利用者や家族と良好な信頼関係づくりを大切にしていきたいと考えている。家族から「家族会を開催してほしい」という要望が出され、事業所が落ち着くまで開催を待ってほしいと回答している。家族に職員の名前を覚えてもらうため、分かりやすい名札を使用している。スタッフ会などで職員間の意見交換を行ったり、利用者の思いを共有したりする場として、積極的に活用することを検討している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月行うスタッフ会で、管理者は職員が抱えているケアに対する意見や提案、改善点等を把握し、その解決や状況の改善などに努めている。 (外部評価) 代表者は管理者を兼務しているため、運営事項など決断ができる立場にあり、職員から出された意見や提案は反映されやすく、職員のやりがいにも繋がっている。管理者は職員間の人間関係が良好になるようサポートを心がけており、人のうわさをしないように教育するなど職員一人ひとりの意見を出しやすい職場環境づくりに努めている。また、管理者は職員とコミュニケーションを図るよう心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員が個々にキャリアアップ出来るよう支援しており、各職員がスキルアップする事で、やりがいや向上心を持って働く事が出来る環境作りに努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 地域密着型サービス協会が主催する研修には、希望する職員が必ず参加出来る様シフトの調整を行っている。また資格取得の為に支援としてスクーリング研修が受講できるようなシフト調整や休暇を与えるなど実地している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互研修に参加することで、相手施設より学びえた意見や助言を参考にしたり、各施設間で行われている勉強会に参加したりする事で、より質の高い介護が出来る様努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービスを開始する前に、利用者様と十分に話し合える時間を作り、生活していく上で不安や要望等があれば把握し安心して頂ける様に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族側の気持ちになり耳を傾け十分にお話をする時間を設 け、要望や不安、困っている事など把握し安心して頂ける よう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 何を必要としているか情報収集に努めアセスメントを通じ て当施設が適切かどうか判断している。また他のサービス 利用についても助言等行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 日常生活で必要な料理の下ごしらえや洗濯物の片付け等 のお手伝いをして頂く事で職員の知らない工夫や知恵を教 えて頂いている。また職員は共に生活していると言う意識 を常に持ち利用者様と共有できるよう関係作りに努めてい る。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご本人の思いやご家族との繋がりを重要視し、面接時は経 験豊かな職員が対応することで両者の架け橋となれる様努 めている。またご家族の方からの相談には誠心誠意を持っ て対応している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) ご家族と電話連絡などを通じて、ご本人が安心して生活出 来る様環境作りに努めている。また、お盆、正月、お祭り などの行事ごとには家族水入らずで外出し楽しんで頂ける よう支援している。 (外部評価) 利用者の好きな映像鑑賞や長年続けてきた俳句の投稿な ど、継続して行えるよう支援している。家族の協力を得 て、馴染みの店に買い物や食事に行けるよう支援してい る。事業所へ友人の訪問があり、快く受け入れをしてい る。また、事業所を利用することにより、利用者同士や絵 手紙などの地域のボランティア、地域住民などと新たな馴 染みの関係ができてきている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者様同士の言動や行動に常に目配り気配りし、声掛けなどを通して支援を行ったりレクリエーションに参加して頂いたりする事で良い関係を保てるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了しても、相談や支援が必要な方やご家族の方との関係を断ち切らない様にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ご本人の意向を大切にし、その思いを把握できるよう努めサービス担当者会議の場にて情報の提供を行っている。ご本人からの把握が難しい時はご家族の意見を伺い検討し、ご本人本位となるよう努めている。 (外部評価) 日々の生活の中で利用者から思いや意向を聞いて把握している。思いを言い表すことが難しい利用者には表情などからくみ取ったり、家族から情報を聞くようにして、安心して生活してもらえよう支援している。新たに知った情報は、ユニット会などで職員間で共有できるよう努めている。	経験の浅い職員も多く、職員のレベルアップを図るためにも利用者の思いや意向に関心を持ってもらい、利用者一人ひとりを深く理解する取組を期待したい。また、職員の利用者を総合的に見つめる目を養い、新たな気づきなどを大切にしてケアに活かすことができることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人、ご家族、担当のケアマネージャーから入居前より情報を収集しスタッフ会において全職員が情報を共有している。入居後もご本人やご家族との談話を通情報収集に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) その人らしく、その人に合った生活が出来るよう工夫している。また、これまでの生活と変化が生じた時には、全職員が情報を共有し合い現状に合った生活をして頂ける様に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) スタッフ会において利用者様の現状や課題を把握し、その都度介護計画の見直しに役立てている。またご家族の方にも近況報告を行う際にその意向を聞きそれを取り入れたプランを作成している。 (外部評価) 計画作成担当者が利用者や家族の意向を確認して介護計画の原案を作成し、毎月のユニット会で話し合い、職員の意見を取り入れて作成している。また、介護計画の援助目標の一覧表を作成し、目標の実施状況を色分けして記録することで、モニタリングを分かりやすくしている。現在、記録はパソコン入力と手書きを併用しているため煩雑で、管理者は重複した部分を簡略化するなど、新たな様式を検討している。	職員全員で介護計画への理解を深め、利用者一人ひとりの目標達成に向けて、統一したケアを提供できることを期待したい。介護記録は、日常的に利用者を支援している職員しか知りえない事実や気づきなどを大切にして具体的に記録し、職員間で情報を共有しながらケアに繋げることを期待したい。また、日々実施したサービスを分かりやすく記録できる様式を、職員間で話し合い作成することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に対応表を作成し日々の状態変化や情報を共有出来るようにしている。また水分摂取量や入浴状況、排泄状況等をチェックし気付いた事を記入。これを基に日々のケアや介護計画の見直しに努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 定期受診の際には基本的にご家族の方に依頼しているが、都合がつかない場合などは看護師対応に行っている。例えば訪問歯科診療において定期的に口腔内のケアを行っているが、異常が見られる場合は個別に対応し、1人ひとりが快適に過ごせるよう環境作りを行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 日々豊かな暮らしをして頂けるよう絵手紙やマンドリン演奏に来て下さるボランティアの方々、民生委員、介護相談委員の方々との交流を行い楽しんで頂ける環境作りに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 定期受診の際には基本にご家族の方に依頼している。日 頃の情報提供を書面にてお渡しし主治医との連携を図っ ている。協力医との連携も密に行いご家族の了承の元、往診 をして頂き適切な医療の支援に努めている。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医や専門医を、家族の 協力を得て継続して円滑に受診できるよう支援している。 家族が同行できない場合には、職員が受診介助をしている ほか、必要に応じて、事業所の福祉車両を貸出しする場合 もある。協力医は相談しやすく連携が取れており、日頃の 健康管理と合わせて、安心した医療が提供できるよう支援 している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師を配置しており、体調変化時の報告は素早く対応し 家人への状況報告、受診に繋げている。看護師は職員から の状況変化の報告をいつでも受けれるように24時間体制 で臨んでいる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時にはサマリーで情報提供を行っている。様子観察を 兼ねての訪問を行い病院との連携を図っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に家人と終末期の方針について充分に話し合いを行 いご本人、ご家族の意向を第一に考え施設で出来る範囲の 説明を行い文書として共有しご本人、ご家族の望まれる支 援をしている。各個人の終末期のケアの対応は主治医の指 導の元に家人の協力を得ながら看護師が職員への助言を 行っている。	
			(外部評価) 今までに看取りの実績はないが、事業所として対応できる 内容を入居時に利用者や家族等に説明している。利用者の 状態に応じて、家族や医師を交えて話し合い、要望に沿っ た支援をしている。事業所での対応が難しく、入院や他の 施設への転居が必要となった場合には、事業所として受け 入れ施設等を一緒に探す対応もしている。管理者はその 時々の事業所で対応できる力量を把握し、現状で利用者を どこまで支援できるか適切に見極め、事業所として対応で きる適切な支援に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成し随時急変時の対応等についての勉強会を実施し意識付けを行っている。緊急時対応の定期的な研修については全職員が順番で参加をしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難経路に障害物がないか確認した上で施設内や施設周辺の整備、見回りを日々行っている。また近くの事業所と連携した定期的な防災訓練により各職員に意識付けを行いトリアージを取り入れたマニュアルの実践を図っている。運営推進会議を通じて、実際に地域の方々に参加して頂き災害時における協力体制を築いている。 (外部評価) 年2回、昼間や夜間、様々な災害を想定した避難訓練を実施している。事業所には避難用スロープを整備し、避難経路を確保するなど、災害発生時にも安全に避難できるよう取り組んでいる。運営推進会議では地域住民と防災対策について話し合い、出された意見を訓練に活かしている。同じ地区にある他の事業所と相互の協力関係を構築し、合同で避難訓練を実施している。また、飲料水や食料、毛布などの備蓄品を用意し、災害時に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者様一人ひとりの思いや人格を大切にし人生の先輩として敬意を払った言葉掛けや対応を行っている。また、サービス担当者会議にて情報を共有し全職員が統一したケアが出来るよう努めている。 (外部評価) 職員は利用者の立場を考え、一人ひとりの人格を尊重した声かけや対応をしている。気になることがある場合には職員同士で注意し合ったり、月1回ユニット会で話し合ったりするなど、改善する取り組みをしている。トイレにはひざ掛けが用意され、利用者の羞恥心に配慮した排泄支援が実施できている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 会話する際には利用者様よりも低い位置で視線を合わせ笑顔でゆっくりと話をし望んでいる事を理解し自己決定が出来るよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 各利用者様に対し常に様子を観察する事で、その人の希望を汲み取る事が出来る様努めている。また申し送りなどで情報を共有し現時点での最良のケアを行えるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 外出時には職員と共に服を選んで頂く事で、その人らしいオシャレが出来るよう支援している。また、月に1度、訪問理容の方による散髪を行っており、定期的に行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食器やテーブルを拭いて頂いたり、料理の下ごしらえ等お手伝いをして頂く。また、週に一回利用者様の前での調理に努めている。その時は、職員も共に食事を楽しめるよう支援している。 (外部評価) 食事摂取基準を参考にし、栄養バランスが取れた高齢者向けのメニューを提供する宅配サービスを利用している。週1回ホットプレートを使用し、お好み焼きや餃子作りに挑戦したり、焼き立てパンやおやつ作りなどを行い、利用者が五感で楽しめる工夫をしている。職員と一緒に配膳の準備や片付けなど、利用者ができる役割に着目し手伝ってもらっている。また、利用者の希望に応じて、回転寿司やうどんを食べに出かけるなど、気分転換を兼ねて外食が楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 各利用者様の食事量を調整し摂取量が少ない時はゼリーなどでご本人の好みの物を補っている。水分摂取量に置いてもご本人のお好みの物を提供し補って頂き支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、声掛けにより口腔ケアを行い、口腔内を清潔にして頂ける様努めている。拒否された場合には時間を置いて再度声掛けを行い職員が交代するなどし対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) こまめな声掛けを行い各利用者様に合わせたトイレ誘導にてトイレ内での排泄が出来るよう支援している。また、夜間時は体調を見合わせながら介助出来る場合はトイレ誘導を行っている。 (外部評価) 排泄時間や水分摂取量を記録してパターンを把握し、時間を見てトイレに誘導して気持ち良く排泄できるよう支援している。利用者の訴えや表情、様子を見逃さないようにして、さりげなくトイレ誘導をしている。オムツを使用している利用者には、体調に応じた排泄支援をしている。毎月ユニット会で、利用者に合わせて排泄用品の使用等を話し合い、現状維持や自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 看護師より、体調変化や便秘の原因について説明を受けており水分摂取量を把握する事で、十分に水分補給できるようにしている。また利用者様によっては起床時に乳酸菌飲料を提供するなどして便秘の解消に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ご本人の希望や体調を最優先にした上で、入浴日を大まかに決定している。入浴の際には気分転換、快適に過ごせるよう支援している。 (外部評価) ユニット毎に個別浴槽があり、週2～3回を基本として、利用者の希望や必要に応じて入浴できるよう支援している。入浴できない日には利用者の状態に応じて清拭や足浴により、清潔保持に努めている。納得できないと入浴をしない利用者には無理強いせず、タイミングや声かけなど工夫して説得し、入浴してもらうようにしている。利用者の状態に応じて、シャワーチェアやキャリーを使用し、安心安全に入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者様の意向を聞き、その日の体調変化をしっかりと観察した上で、随時声掛けをする事で無理強いのない生活リズムを大事にしたケアを行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 常に職員がチェック出来るよう個人ファイル及び薬かごに薬の説明シートを添付している。特に重要な薬についてはスタッフ会で説明や指導等を受け全職員が把握出来るようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 毎週一度に職員と共に昼食作りを行っている。一人ひとり役割があり、楽しく過ごされるよう支援している。気分転換や日々の張り合い喜びを感じて頂けるよう努めている。DVD鑑賞も要望で行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日には、声掛けにてドライブや施設周辺の散歩を楽しんで頂けるよう支援している。買い物の希望がある時には近くのスーパーに外出している。また、地域のイベント等にも積極的に参加して頂く事で地域の方々との交流に努めている。 (外部評価) 外出は特別なものではなく、日頃から散歩やドライブできるよう支援している。日常会話の中で聞いた利用者の希望に応じて、気軽に外出できる支援に努めている。季節に応じて、翠波高原にコスモスを見に出かけ、利用者から率直な喜びの声が聞かれ、職員の励みに繋がっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の所持を希望されている利用者様に関しては職員が把握した上で、一定額持って頂き自由に使えるよう支援している。残金が少なくなると家人からお金を預かり補充を行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 入居時に自由に電話や手紙のやり取りが出来る事をご本人やご家族に説明している。利用者様が希望された場合には電話を掛け楽しく談話出来るよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 四季の花など折り紙で折り廊下、ホールに飾りつけをし落ち着いて過ごせる空間作りをしている。快適に過ごして頂く為こまめに清掃を行っている。 (外部評価) 開設10年を迎えた事業所であるが、日々丁寧な管理や清掃が行われ、清潔な状態が保たれている。玄関には季節の花が生けられ、共用空間には俳句や絵手紙、写真が飾られている。畳コーナーでは利用者が洗濯物をたたんだり、身体を休めながら談笑しながらくつろいでいる姿が見られた。ユニットの間には広いウッドデッキがあり、利用者が芋炊きを食べたり足浴を楽しんでいる。庭には野菜や花を育てている。金魚の飼育を楽しむ利用者の姿も見られ、ゆったりした時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) テラスにベンチや日よけパラソルを設け利用者様同士で過ごして頂いたり、中庭には花を鑑賞して頂いたりして、自由にどの場所にも行き来出来る空間作りを行っている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居の際に、ご本人やご家族と相談した上で、ご本人の馴染みの物を持参して頂く事で、快適に居心地良く過ごして頂けるよう努めている。 (外部評価) 居室はベッドとタンスが備え付けられている。居室の中には畳敷きの部屋もあり、利用者の生活習慣や希望により使い分けている。利用者の思い入れのある物を持ち込めるよう家族等に声かけをしており、利用者は使い慣れた家電や生活用品を自由に配置し、家族と一緒に居心地良い空間となるよう模様替えをしている。また、来客者と話せる場所を確保している利用者もいる。居室の清掃も行き届き、利用者が気持ち良く生活できるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室やトイレ等、各部屋にそれぞれの場所が確認できるよう目線に合わせて提示し、安心して生活して頂けるよう工夫している。	